対象年度		令和 7年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		市道整備事業						予算事業名		市道整備事業費			
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	道路法、道路構造令、結城市道の構造の技術的基準等を定める条例				
			08	02	03	35	経常経費						
総合計画体系		住みたい・住み続けたい 安全・快適な都市を目指そう 快適で住みやすいまちづくり 良好な住環境の形成						事業の区分		主要事業			
		事業期間		継続 (年度～令和 9年度)				担当課係等		土木課 改良係			
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
道路拡幅整備や砂利道の舗装化を進めることで利便性及び安全性の向上を図り、対象者への快適な利用に寄与するものである。							沿線住民にとって切実な問題であり、多数の要望が寄せられている。 要望件数（令和6年3月1日） 道路改良事業 27件（内 4件整備予定） 舗装新設事業 43件（内 4件整備予定）						
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】						
市道整備には、道路を拡幅して側溝を布設する道路改良整備と砂利道をアスファルト道にする舗装新設整備があり、それに伴う各種委託、物件補償を含めた事業で構成されている。							生活のために日常的に道路を利用している住民						
							【事業をとりまく環境の変化】						
							多数の要望に対し、限られた予算の中での事業推進のために、地元自治会にて道路改良事業については幅員5m（片側側溝布設）または6m（両側側溝布設）、舗装新設整備については幅員4mまでの土地の寄付について、合意形成をいただくよう基準を定めている。 土地の寄付が困難な場合は、工事費の2割を地元で負担することに同意していただき進めている。						
【令和 7年度 事業内容】			【令和 8年度 事業内容】				【令和 9年度 事業内容】						
測量、設計等委託 道路改良工事 舗装新設工事 道路改良附帯工事 用地買収、境界杭購入 物件移転補償			測量、設計等委託 道路改良工事 舗装新設工事 道路改良附帯工事 用地買収、境界杭購入 物件移転補償				測量、設計等委託 道路改良工事 舗装新設工事 道路改良附帯工事 用地買収、境界杭購入 物件移転補償						
■事業費													
				R05年度		R06年度							
財源内訳	国庫支出金			0		0							
	県支出金			0		0							
	地方債			0		0							
	その他			0		0							
	一般財源			44,405		39,381							
歳入計（千円）				44,405		39,381							
歳出内訳	節（番号＋名称）			金額（千円）		金額（千円）							
	10	需用費		196		200							
	12	委託料		2,547		2,892							
	13	使用料及び賃借料		222		0							
	14	工事請負費		39,111		33,789							
	16	公有財産購入費		87		500							
	18	負担金補助及び交付金		100		0							
	21	補償補填及び賠償金		2,142		2,000							
	歳出計（千円）（A）				44,405		39,381						
	伸び率（％）						-11.31						
備考													

令和 5年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		R05年度	R06年度	R07年度
活動 指標	道路改良工事	m	目標	500.00	500.00	500.00
	工事延長		実績	439.00	0.00	0.00
	舗装新設工事	m	目標	400.00	500.00	500.00
	工事延長		実績	270.20	0.00	0.00
成果 指標	道路改良工事 改良率	%	目標	21.30	21.35	21.50
			実績	21.40	0.00	0.00
	舗装新設工事 舗装率	%	目標	65.00	65.10	65.15
			実績	65.04	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	誰もが安全安心に通行できる道路は、市民生活における重要な基盤である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	道路法第16条により、市町村道はその路線の存する市町村が管理することになっております。
	手段の妥当性	A 妥当である	現在の手法が一般的である。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	法令及び技術管理に即し、設計・施行するため妥当である。人員に関しても最小限の人数で行っており、改善の余地はない。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	目的とした対象者に対して、広く便益を提供している。
有効性	成果向上の余地	B どちらも言えない	本事業は、市道の改良、舗装新設を行うものであり、計画は地域要望や道路環境を満足させた水準としていることから、さらなる成果向上は難しい。
進捗度	事業の進捗	B どちらも言えない	地域要望に対して現在の予算内で行うことは困難であり、事業は遅れている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
道路改良、舗装新設とも現在の予算に対して地元からの要望量が多いことから事業に着手し、完了するまで長時間を要することになる。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
予算増額を要望するとともに、1箇所あたりの施工延長を伸ばし、設計額に占める諸経費の削減に努めたい。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））	
☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 舗装要望・側溝改良整備等の要望が多い中で、その設計・施工の経済性・必要性・妥当性及び耐久性を考慮し対応する。	
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））	
☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり	